

美しい森林づくり全国推進会議 財団法人 国立公園協会が担う 美しい森林づくりへの活動

「美しい森林づくり全国推進会議」の構成団体で、
自然公園・自然環境の保全に関する普及啓発を行っている財団法人国立公園協会。
常務理事の油井正昭さんにおもな活動内容や
「美しい森林づくり全国推進会議」での役割などを伺いました。

自然公園・自然環境を守る 普及啓発のため歩んだ歴史

国立公園協会は、昭和二年一二月に日本に国立公園を誕生させるため、有志によって結成され、昭和四年一月に会則等を定め正式に国立公園協会として発足しました。そして、昭和六年には国立公園法が制定され、準備段階を経て、昭和九年に初めて国立公園の指定が実現しました。その後、国立公園協会は昭和二五年に財団法人となり、現在にいたるまで自然公園、自然環境の調査研究や普及啓発、自然公園関係の図書刊行、国民のみなさんが気持ちよく公園を利用できるような活動を行っています。

具体的に行っている活動は多岐にわたります。昭和四年から継続して「国立公園」とい



常務理事の油井正昭さん

う機関誌を発行し続けていることも、そのひとつです。さまざまなイベントでも配布されていたこの国立公園誌では毎月、自然公園に関する特集を組み、表紙には私共が主催している自然公園写真コンクールの入賞作品を使わせていただいています。自然公園写真コンクールは昭和二六年に国立公園指定二〇周年を記念して始まり、毎年行っています。また、子供たちに向けても「自然は友だちわたしの自然観察路コンクール」と題して、全国の小・中・高校生を対象に身近な自然を観察できる小道を絵地図と自然観察の解説文を書いて応募してもらうコンクールを行っています。入選作品の発表は朝日新聞や国立公園誌などで行い、環境大臣賞や富士フィルム賞が贈られます。通学路や公園などで子供たちの目を通して自然の素晴らしさに気づいていただくこのコンクールも啓発事業のひとつです。

また、たくさんの行事にも参加しています。最近では四月二九日に新宿御苑で「二〇〇八新宿御苑みどりフェスタみどりフェア&国立公園フェア」が開催されました。「国立公園フェア」が行われるのは昨年が続いて今年が二回目です。このフェアは、国立公園について知ろう！をテーマに掲げた催しで、国立公園協会は自然公園を啓発するPRテントを出しました。そのほか、自然公園ふれあい全国大会を毎年、主催者の一員として開催



1



2



3



4

しているほか、六月一日の「景観の日」には、自然公園写真コンクールの入選作品をパネルにしてフロアに展示させていただきました。

**美しい森林を守るためにも
ボランティア活動に取り組む**

「美しい森林づくり全国推進会議」には第一回目から参加させていただいていますが、森林を大切にしていきたいという思いはみなさんと同じです。近年は様々な要因により、国立公園の自然環境も損なわれつつあるため、昨年より独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受け、国立公園保全活動ボランティア隊を立ち上げました。国民参加型

の自然と触れ合い、楽しく国立公園を保全する活動をしていこうという目的のもと、第一回目には日光国立公園湯元地区で外来植物のオオハンゴンソウの除去を行い、第二回目には上信越国立公園鹿沢地区でレンゲツツジ群落の保全活動を実施しました。また、大学教員やNPOなどさまざまな立場のパネラーに参加していただいたシンポジウム「国立公園保全活動へのボランティア参加を考える」よりも多くの参加を得るために「も開催しましたが、これらの場で出た意見を活かし、今後はボランティア活動にさらに力を入れたいと思っています。年輩の方たちのみならず、学生に向けてのインターンシップ的なプログラム

財団法人 国立公園協会

昭和4年に正式に国立公園協会として発足し、昭和25年に財団法人となりました。

国立公園法が制定されてから77年。(財)国立公園協会は長年にわたって自然公園・自然環境保全の普及啓発に取り組んでいます。

ラムを展開することも考えています。美しい森林は美しい心を育てることにもつながります。自然に関心を持つ人をひとりでも増やしたいですね。

- 1：大盛況だった「国立公園フェア」
- 2：「国立公園フェア」では天然雪の雪山が子供たちに大人気
- 3：国立公園保全活動ボランティア隊によるレンゲツツジの保全活動
- 4：尾瀬で行った「ごみ持ち帰り運動」